

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22310160

研究課題名(和文)多様な身体を目指すジェンダーフリーなダンス教育法の開発と構築

研究課題名(英文)Development and Construction of Gender-free Dance Teaching Methods toward the Diversification of Dance

研究代表者

猪崎 弥生 (IZAKI, Yayoi)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：00176124

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,100,000円、(間接経費) 2,730,000円

研究成果の概要(和文)：体感をより豊かなものにするには、男女の枠にとられない多様な身体性を獲得しなければならない。本研究はこうした立場から学校教育における男女共習ダンスの学習内容と指導方法を開発するとともに、その理論的基盤を構築することを目的とした。中学生、大学生、体育教員を対象とした質問紙調査や面接調査によりダンスにおけるジェンダー・バイアスやジェンダー・イメージを検討する一方、授業実践、ワークショップ、研究会を通してダンス授業モデルを検討した。研究成果は学会大会と学会誌に公表するとともに、公開シンポジウムを開催して成果を報告し、舞踊教育、ジェンダー、体育科教育の専門家・研究者から評価を受けた。

研究成果の概要(英文)：If teachers want to make their pupils' bodily experience richer, they have to help them acquire a variety of body images, being free from manliness and womanliness, in other word, gender-free. From this standpoint, this study is aimed at developing curriculum and the methods of dance class at which boys and girls attend together in school. In order to investigate these as well as to construct the theoretical base of gender-free dance, a survey was conducted, using questionnaires for and interviews of junior high school pupils, college students, and teachers of physical education. Peer-reviews, workshops and research meetings were held where researchers and dance teachers discussed the ideal of dance teaching. The results were reported at conferences and in academic journals, and evaluated by specialists and researchers in the fields of dance education, gender study, and physical education.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：ジェンダー ダンス ジェンダー・フリー ダンス教育法 多様な身体

1. 研究開始当初の背景

これまで男女共習における指導については、国内外においていくつかの学習モデルが提示されてきた。創作ダンスの手法として知られる「課題学習法」を用いた実験的な男女共習授業を行った結果、生徒のジェンダー意識に変化がみられたことから、課題学習法が性差にとらわれない個々人の創造性を引き出す有益な手法である可能性に言及している。しかし、これまで提示された学習モデルに共通する問題として、第一にその効果についての数量的検証および議論が不十分であること、そして第二に、理論的根拠が脆弱な上に成り立っている学習モデルは、実際の指導現場では適用しにくいことが挙げられる。教育現場の混乱を避けるためにも、客観的な分析に基づく指導法を考案し、指導者が指導しやすい形式に整備することが早急に求められている。本研究はこの状況を踏まえ、ジェンダーの視点から理論的基盤を構築した上で必修化にあわせたダンス教育法を立案する、国内はもとより国外でも初となる試みである。

研究代表者はこれまでダンスの印象を統計処理によって客観的に数値化する「舞踊運動評価尺度」という手法を用いた研究を行ってきた。平成 16 年度から 18 年度の科研基盤研究 C「表現運動(舞踊)の指導力を向上させるための有効な指導言語と評価との関係について」の助成のもと、舞踊指導における評価と指導言語との関係を明らかにする試みを行っている。博士論文において構築した「舞踊運動評価尺度」は、男女共習授業モデルを考案する前提となる。また、平成 19 年度から平成 20 年度の科研萌芽研究「身体表現から考えるジェンダー舞踊動作に見られる女らしさと男らしさ」においては、日本舞踊の動きがいかに「男らしさ」「女らしさ」という印象と結びついているかについて、印象評価実験によ

り比較検討を試みている。その研究をもとに、日本学術振興基金「ひらめきときめきサイエンス」における「からだで感じる日本の男と女～日本舞踊を踊ってみよう～」では、ダンスにおけるジェンダーから舞踊教育へと方向を向けることになった。このプログラムの目的は、中学生の男女生徒が、日本舞踊における男女舞踊家が踊る男踊りと女踊りの実演や映像を鑑賞した上で、実際に舞踊家と一緒に踊ることによってどのように感じるのか、踊りに見られる男らしさと女らしさの違いを、身体を通して学ぶことにある。この体験プログラムを実施することによって、男女共習授業の教育モデルのヒントが得られた。

2. 研究の目的

平成 21 年度より中学校の体育(1年、2年)でダンスが男女必修授業の施行期間となり、平成 24 年度からは完全実施となった。これまで「女性のもの」という強いイメージから男子生徒に敬遠されてきたダンスの必修化は、男女両方にとって固定化されたジェンダー・バイアスを見直す絶好の機会を提供するものと考えられる。しかし、これまで国内外ともにモデル授業プランの紹介等がなされてきたものの、その指導方法及びその基盤となる理論について、学術的見地からの議論がなされているとは言い難い状況にある。ダンス授業の適切な内容・方法の検証はもちろん、指導者の研修・啓蒙を行い、効果的で適切な教育を実現することが喫緊の課題となっている。そこで本研究では、男女の枠にとらわれない多様性のある身体の体感を重要な指針とし、理論と実践のフィードバックを繰り返しながら、より精緻で実践的なダンスの男女共習の学習内容と指導方法の開発と構築を行うことを目的とする。

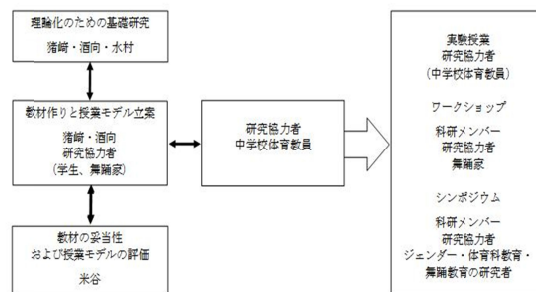
3. 研究の方法

本研究は4年計画であり、準備、実施、評価・普及にそれぞれ1年、2年、1年を割り当てる。各段階では、理論化、実践研究、広報・普及の3つの作業を並行して進める。準備段階である1年目は理論化を主に進め、2年目以降の実践研究を準備する。実施段階である2年目・3年目は実践研究を中心とし、評価の段階である4年目は成果の総括と普及・広報に集中する。理論化の作業では、授業モデルの精緻化及び教育効果の検証のための方法と基準を検討する。実践研究の作業では、実験授業を実施して妥当性・効果性・実施可能性等を検証する。さらに、ワークショップにより研究授業を一般の教員に公開し、教員自身がそれぞれの現場で実施できるよう支援する。広報・普及の作業では、教材、指導要領（授業モデル）、パンフレット等を出版するとともに、ホームページによる進捗状況及び研究成果の公表を継続して行なう。

研究計画

段階	年度	理論化	実践研究	広報・普及
準備	22	基礎研究	準備・実験	HP
実施	23~24	授業モデル立案	実験授業・WA	HP・教材等出版
評価・普及	25	-	シンポジウム・WS	HP・講習会

代表者である猪崎（舞踊学・舞踊教育）は研究統括を行い、分担者である水村（身体運動科学）とともに実験結果から理論化を進める。また分担者である酒向（舞踊学・舞踊教育学）は、猪崎、水村とともに教材作りと授業モデルの立案に関わる。そこで、研究協力者との連携を図る。研究分担者の米谷（実験心理学、大学教育学）は、授業モデルの評価、ワークショップやシンポジウムに関わる。



4. 研究成果

準備段階である平成22年度は理論化を主に進め、2年目以降の実践研究を準備することをねらいとして研究を進めた。具体的な授業モデルの構築のために必要なダンス学習経験と動きのジェンダー意識に関する質問紙調査を2大学で予備調査し、2つの中学校で授業前後に本調査を行い、そのデータ分析を行った。ダンス授業実践研究では、A大学附属中学校3年生（参与観察、授業者へのインタビュー、授業記録の確認）とC大学附属中学校2年生（参与観察、授業者へのインタビュー、毎授業学習カードおよび映像記録）を行った。さらに、中学校における教育改革実践として、A大学附属中学校において大学ダンス教員の介入授業の検討を行った。

平成23年度では、実施した内容は以下の3つである。

理論化の作業では、A大学附属中学校の授業実践を踏まえた検討を行い、ダンスの男女共修授業における現代的リズムのダンスの授業内容と方法、ダンスにおけるジェンダー、教師教育に関する課題等を精査した。また、大学生を対象としたダンスにおけるジェンダー・イメージの検討するために、質問紙作成にあたり尺度構成の予備調査を2度行った。予備調査を通して15項目で構成される舞踊運動評価尺度を制定した。その質問紙を用いて、大学生のジェンダー・イメージの調査結果をもとに日本スポーツ・ジェンダー学会の査読誌に投稿し、研究ノートとして採択された。

実践研究（実験授業・ワークショップ）では、平成 23 年 10 月～11 月に E 中学校における授業研究を行った。そして、平成 23 年 12 月に F 大学附属中学校において日本舞踊家による実験授業を行った。

さらに、平成 24 年 1 月には、本科研プロジェクトのメンバー、研究協力者、お茶の水女子大学学生および大学院生の参加者によるワークショップを行った。ワークショップでは、実験協力者の実践を報告して頂き、今年度の研究内容とその課題について討議を重ねた。広報普及活動では、HP <http://www2.cf.ocha.ac.jp/buyou/izaki/> を作成した。

平成 24 年度では、授業モデルに関する理論化と精緻化の作業では、中学生の意識（ダンスイメージ）・態度・授業評価についての調査を通して、紀要論文を投稿した。また、2 つの中学校におけるダンス授業に対する意識の男女差を検討した論文を執筆した。教育効果の検証方法の検討に関しては、評価指標と評価基準の検討したことによって、中学校教員と中学生のジェンダー・バイアスについて紀要論文に投稿した。さらに、授業実践者へのインタビュー（男性教員 4 名、教員養成課程学生 6 名、女性教員 2 名）と中学校生徒のインタビュー（14 名）を行ったことで、教員と中学校の生徒が感じているダンスに関する意識やイメージを質的に検討した。授業モデルの試案（たたき台）づくりにおいては、F 大学附属中学校公開授業、E 中学校公開授業、G 中学校（男子中学生のみ）授業実践を通して、授業研究を重ねた。ジェンダーに関する理論的・実践的研究においては、大学生の男女共修ダンス授業の効果について学会発表を行った。ダンス授業における活動量の調査は、E 中学校、I 中学校において実施した。ワークショップとシンポジウムでは、8 月に岡山市において中学校体育教員を対象とした講

習会、9 月に科研メンバーでのワークショップを実施した。広報普及活動では、HP <http://www2.cf.ocha.ac.jp/buyou/izaki/> を運用した。

本研究の評価の段階である 4 年目の平成 25 年度では、研究成果の総括と普及・広報を集中して行った。これまでの調査結果を岡山大学研究集録に投稿し 3 本の論文にまとめた。10 月 6 日（日）にお茶の水女子大学において研究成果を報告して評価を受ける公開シンポジウム「ダンス授業におけるジェンダーを考える - 多様性の捉え方をめぐって - 」を開催し、舞踊教育、ジェンダー、体育の専門家による評価を受けた。そして、シンポジウムで討議された内容を含む科研報告書を作成した。

5. 主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 7 件)

猪崎 弥生、酒向 治子、永田 麻里子、水村 真由美、中村 恭子、田中 俊之、原祐一、宮本 乙女、木原 慎介、出原 智波、輿儀 幸朝、米谷 淳、ダンス授業におけるジェンダーを考える、科研費基盤 B「多様な身体を目指すジェンダー・フリーなダンス教育法の開発と構築」報告書、査読無、2014、1-167

酒向 治子、永田 麻里子、猪崎 弥生、中学校女性体育教員のダンスに対する抵抗感と羞恥心について、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、155 号、2014、109-113

酒向 治子、永田 麻里子、出原 智波、山口 順子、猪崎 弥生、中学生のダンスに対するジェンダー・バイアス、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、154 号、2013、73-77

酒向 治子、永田 麻里子、出原 智波、宮本 乙女、猪崎 弥生、中学生のダンスに対するイメージ - 男女差の検討 -、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、153 号、2013、97-102

猪崎 弥生、酒向 治子、永田 麻里子、田中 俊之、米谷 淳、中学生のダンス・イメージ、ダンスに対する態度、ダンス授業の

評価：質問紙調査を基に、お茶の水女子大学
人文科学研究、査読有、9巻、2013、15-24

酒向 治子、永田 麻里子、出原 智波、
角南 順子、猪崎 弥生、教員と中学生のダ
ンスに対するジェンダー・イメージ、岡山大学
大学院教育学研究科研究集録、査読無 152
号、2013、45-49

猪崎 弥生、永田 麻里子、酒向 治子、
大学生は「男らしさ」「女らしさ」をどのよ
うに捉えているか - 質問紙調査に基づく検
討 -、日本スポーツとジェンダー研究、査読
有、10巻、2012、16-22

〔学会発表〕(計 5件)

酒向 治子、田中 俊之、猪崎 弥生、
男性教員と教員志望学生のダンスに対する
意識、第 65 回舞踊学会大会、2013 年 12
月 7 日・8 日、愛知県芸術文化センター

水村 真由美、酒向 治子、猪崎 弥生、
中学校で行なわれるダンス授業の活動量、
日本体育学会第 64 回大会、2013 年 8 月 28
日～30 日、立命館大学びわこ・くさつキャン
パス

小野 めぐ美、猪崎 弥生、中学生のダ
ンスへの意識とダンスの動きに対するジェ
ンダー・イメージ、日本体育学会第 64 回
大会、2013 年 8 月 28 日～30 日、立命館
大学びわこ・くさつキャンパス

猪崎 弥生、酒向 治子、大学生の男女
共修ダンス授業の効果、日本体育学会第 63
回大会、2012 年 8 月 22 日～24 日、東海
大学

猪崎 弥生、水村 真由美、酒向 治子、
中学生のダンスにおけるジェンダー・イメ
ージ - その 1 . 性差の検討 -、日本体育学
会第 62 回大会、2011 年 9 月 25 日～27 日、
鹿屋体育大学

〔図書〕(計 1件)

猪崎 弥生、一二三書房、開かれた身体を
求めて - 舞踊学へのプレリュード -、2012、
175

〔その他〕
ホームページ等

<http://www2.cf.ocha.ac.jp/buyou/izaki/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

猪崎 弥生 (IZAKI, Yayoi)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科
学研究科・教授
研究者番号：00176124

(2) 研究分担者

水村 真由美 (久埜 真由美)
(MIZUMURA (KUNO), Mayumi)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科
学研究科・准教授
研究者番号：60292801

米谷 淳 (MAIYA, Kiyoshi)
神戸大学・大学教育推進機構・教授
研究者番号：70157121

三戸 (酒向) 治子 (MITO (SAKOU), Haruko)
岡山大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：70361821

田中 俊之 (TANAKA, Toshiyuki)
武蔵大学・社会学部・助教
研究者番号：60709369